

HTB制作のドキュメンタリー
『ありがとう いのち ～みんな きみが大事～』
特別表彰部門 青少年向け番組で最優秀賞を受賞

HTB が制作し、今年5月5日の子どもの日にあわせて放送したHTBノンフィクション「ありがとう いのち ～みんな きみが大事～」が、平成25年日本民間放送連盟賞 特別表彰部門 青少年向け番組で最優秀賞を受賞しました。

日本民間放送連盟賞は、番組、CM、放送技術の向上と、放送活動のより一層の発展を図ることを目的に、日本民間放送連盟（民放連）が1953年に創設した賞です。全国の民放各社から応募された番組と事績を対象に年1回実施し、優れた番組、優秀と認められた事績を顕彰しています。このうち、「青少年向け番組」のカテゴリーは、全国のテレビ各社で選定・放送している「青少年に見てもらいたい番組」を対象としています。表彰式は11月6日に東京で開かれる民間放送全国大会で行われます。

【受賞作品】 HTBノンフィクション「ありがとう いのち ～みんな きみが大事～」

番組プロデューサー兼取材ディレクター	阿久津友紀
ディレクター	浅野早也香
取材ディレクター	浅野 絵理
編集	山田 裕加
総括	山田 佳晴

【放送日時】 2013年5月5日(日) 16:30～17:25(北海道エリア)

【受賞理由】 「誕生という難しいテーマに正面から真摯に向き合い、家族が子どもたちと一緒に“いのち”について考えるきっかけを提供してくれる番組である」との評価をいただきました。

【番組内容】 学校現場でのいじめ・不登校など“いのち”の問題が顕在化しています。この尊い“いのち”を守りたい、と活動する女性たちがいます。札幌の主婦、菊池咲十子さんらは“誕生学”という授業を札幌市内の小学校で行っています。授業への評価も高く、道内各地へその活動が広がっています。学校現場も注目する彼女たちの取り組み、その思いを込めた一年を追いました。自分のいのちを大切に、他人のいのちも大切に。でもそうならない…。
“いのち”が危うい学校現場の現状を生声で綴りながら、今の“こころ”の教育のあり方についても考えます。